

教育相談課だより No.16

折れない心を育てる②

折れない心を育てるためには、自尊感情を育てることが一つのキーワードになると思われます。では、自尊感情を育てるにはどうしたらよいかを考えてみたいと思います。

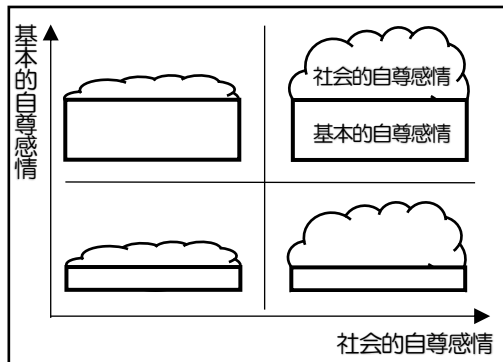


図 「子どもの自尊感情をどうのばすか」(近藤卓)より作図

近藤卓氏は、自尊感情を社会的自尊感情と基本的自尊感情にわけ、4つのパターンに分類(図参照)しています。社会的自尊感情は、他者との比較による相対的な優劣による感情でうまくいったり褒められたりすると高まり、失敗したり叱られたりすると途端にしぼんでしまうものであり、状況や状態に支配されるものとしています。一方、基本的自尊感情は、成功や優越とは無関係の感情で、あるがままの自分自身を受け入れ自分をかけがえのない存在として丸ごと認める感情とし、社会的自尊

感情がつぶれてしまったときに、心を支えてくれるものとしています。

また、国立教育政策研究所発行の生徒指導リーフLEAF18では、「日本の児童生徒の場合には、他者からの評価が大きく影響する」「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という『自己有用感』は、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価」「自己有用感に裏付けられた自尊感情が大切」などと指摘し、「単に良かった・悪かったと評価するだけの『褒める』では、『自尊感情』を育むことはできても『自己有用感』を育むことにはなりにくい」と示しています。



以上のことから、自尊感情を育てるためには、社会的自尊感情と基本的自尊感情をバランスよく育てることが必要ですが、折れない心を育てるためには、基本的自尊感情を育てることが重要だと考えられます。さらに、基本的自尊感情を育てるためには、自己有用感を育てるように関わる必要があると考えられます。

では、単に良かった・悪かったと評価するだけの「褒める」のではなく、自己有用感を育てるにはどうしたらよいのでしょうか。そのためにはアドラー心理学の考え方が有効に働くと考えられます。アドラー心理学については、次号で詳しく取り上げます。